

11. 当院の心臓リハビリテーション立ち上げについて

～大学病院での取り組み～

徳島大学病院循環器内科¹，徳島大学病院リハビリテーション部²

○上田 由佳¹，岩瀬 俊¹，久岡白陽花¹，伊勢 孝之¹，前田 香代子²，
西川 幸治²，高田 信二郎²，安井 夏生²，佐田 政隆¹

【はじめに】

2006 年の診療報酬改定において心臓リハビリテーション(以下心リハ)の保険適応が拡大され，その後 2008 年の診療報酬改定で施設基準が緩和されたことにより施設数は増加傾向にある。しかし，医療機関における心リハの普及率は心疾患患者数と比べると明らかに少ない。

厚生労働省循環器病研究委託費「わが国における心疾患リハビリテーションの実態調査と普及促進に関する研究」班(後藤葉一班長)の調査によると，外来通院型心リハを実施している施設は，研修施設で 9%，関連施設で 2%と低値であった¹⁾。

また，経営母体別にみると当院に該当する旧国立大学付属病院が 4.1%，私立大学付属病院が 7.3%，国立病院機構病院が 5.3%，自治体病院が 16.5%，民間病院が 62.5%，診療所が 4.4%であった²⁾。このように旧国立大学付属病院での心リハは全国的にはまだ普及していないが，当院では昨年 4 月より新規に外来通院型を含む心リハを立ち上げることに成功した。

【目的】

2010 年 4 月より，当院の総合リハビリテーションセンターにて心臓リハビリテーションを開始した。2010 年 4 月～2011 年 3 月の 1 年間の業績と問題点を報告する。

【結果】

開始当初のスタッフは専任医師 3 名，専従看

護師 1 名，専任理学療法士 2 名であった。専任医師および専従看護師は他教育施設にて心臓リハビリテーションに従事もしくは研修経験があったが，専任理学療法士は運動器，脳，呼吸器リハビリの経験しかなかった。

2010 年 4 月～2011 年 3 月までの 1 年間で 185 名の患者が当院の心リハプログラムに参加した。そのうちわけは，狭心症 68 名，心不全 56 名，急性心筋梗塞 27 名，開心術後 20 名，大血管疾患 11 名，閉塞性動脈硬化症 3 名であった。大学病院の特徴上，他施設に比べて急性心筋梗塞の割合が少なく，心不全の割合が多い結果となった。

心リハのメニューとしては，ストレッチとエルゴメータもしくはトレッドミルによる運動療法に加え，個別面談や集団講義による栄養・禁煙・疾患指導を行った。パンフレットやポスター，市民公開講座を利用することで，患者の関心が高まり，定着率が高くなった。

外来通院型心リハに関しては，立ち上げから 3 か月は入院患者からの移行のみであった。大学病院の特徴上，遠方からの入院患者が多く，外来通院型心リハに参加できない患者が多かった。しかし，FAX 予約によるかかりつけ医からの紹介を受け入れを開始したところ，外来通院型心リハの参加者が著明に増加した。

【考察】

大学病院での心リハの立ち上げの問題点として特に外来通院型心リハを実施するのが難しい

点であると考え、循環器専門医研修施設で心リハを実施していない理由として最も多いのがスタッフ不足であった²⁾。当院では初期研修医・後期研修医も教育の一環として心リハに従事する体制としており、スタッフ不足という点が少し解消できていると考える。また、患者側の心リハ不参加の要因としては担当医が患者に対して心リハを積極的に紹介しないことがあげられている²⁾。初期研修医・後期研修医が心リハに携わることにより、スタッフ自体も心リハがいかに重要かが理解でき、積極的に担当患者に心リハを勧めることになり、よい循環となっていると考える。

その他、大学病院の特徴として遠方からの患者や重症心不全の患者が多いことから、心リハへの継続的な参加が困難となっている。これについては、単調にならないように個別指導や心リハメニューの改変を定期的に行うなどの工夫が必要と考えている。また、定期的に電話で介入するなどの試みも検討している。

【まとめ】

当院での心リハの現状および問題点とその解決法を考察した。今後は心疾患の二次予防だけではなく、一次予防に関しても取り組んでいきたいと考えている。

【文献】

- 1) 上月正博:わが国において心臓リハビリテーションはどの程度普及しているか?. Heart View 2008 ; 12(5) : 14-19
- 2) 小山照幸, 伊東春樹, 上月正博, 高橋哲也, 井澤和大, 及川恵子, 田倉智之, 長山雅俊, 吉田俊子, 田城孝雄: 心大血管リハビリテーション料届出医療機関の動向~平成 20 年度診療報酬改定後の心臓リハビリテーションの現状~. 日本心臓リハビリテーション学会誌 2010 ; 15(2) : 340-343